

## 家庭系ごみの有料化制度導入による意識調査結果 (委員意見反映版)

対象：市民100人会会員 113人

回答数：74人 (回答率65.5%)

## 1 回答者の属性

## (1) 性別【有効回答数 74人】

(人)

男	33	45%
女	41	55%
合計	74	100%

## (2) 年代【有効回答数 74人】

(人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
0	4	9	14	14	17	14	2	74
0%	5%	12%	19%	19%	23%	19%	3%	100%

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

## (3) 世帯人数【有効回答数 74人】

(人)

1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人以上の世帯	合計
7	26	20	16	4	1	74
9%	35%	27%	22%	5%	1%	100%

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

## (4) 職業等【有効回答数 73人】

(人)

主婦・主夫 (無職含む)	33	45%
自営業	4	5%
会社員 (公務員含む)	27	37%
パート・アルバイト	8	11%
学生	1	1%
合計	73	100%

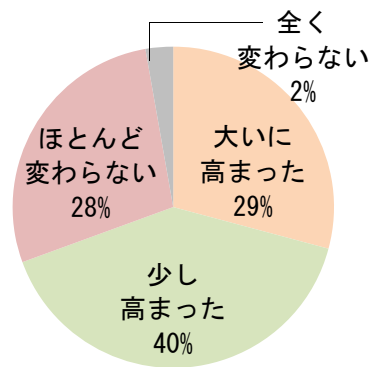
注) 無回答1人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

## 2 有料化制度導入による住民の意識改革

### (1) 世帯におけるごみ減量・再利用・リサイクルへの意識の高まりについて【有効回答数 72人】

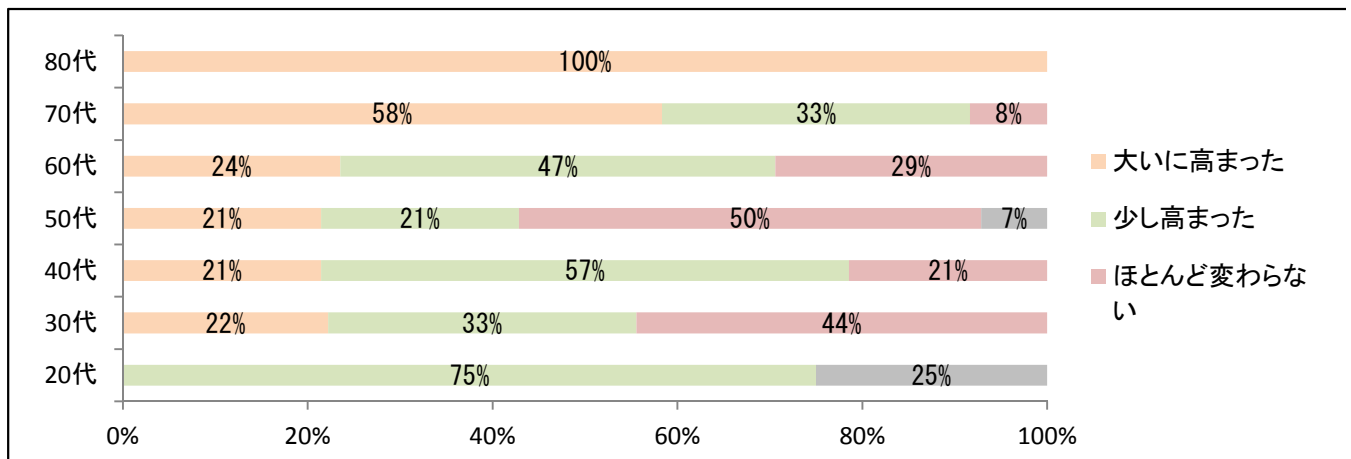
	(人)	
大いに高まった	21	29%
少し高まった	29	40%
ほとんど変わらない	20	28%
全く変わらない	2	3%
合計	72	100%



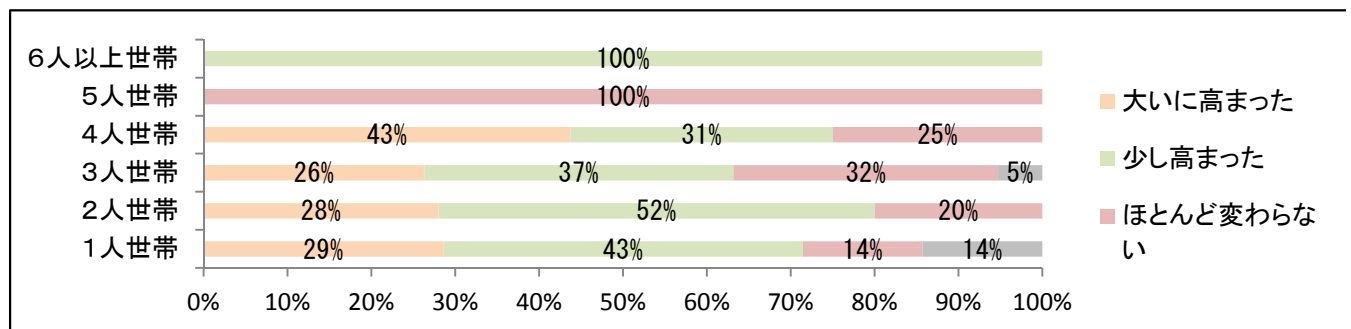
注) 無回答2人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

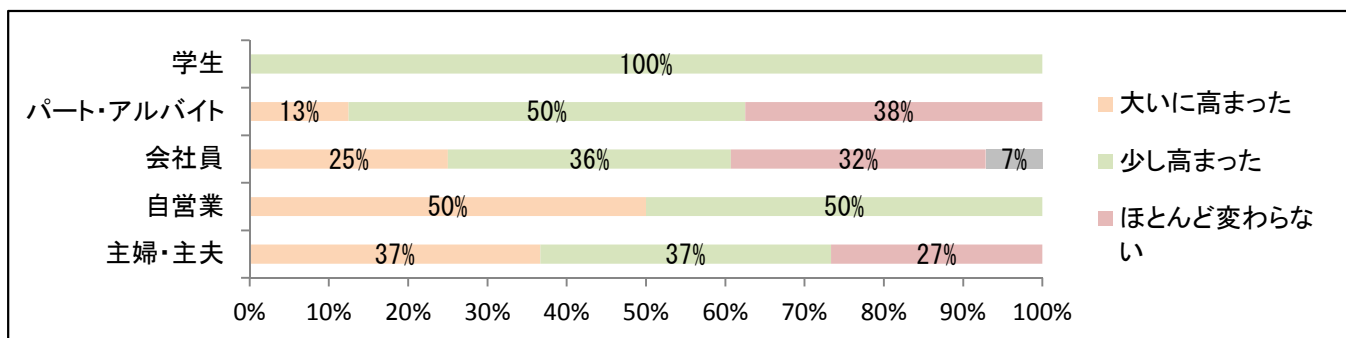
#### ア 年代別集計【有効回答数 72人】



#### イ 世帯人数別集計【有効回答数 72人】



#### ウ 職業別集計【有効回答数 71人】



注) 職業無回答1人

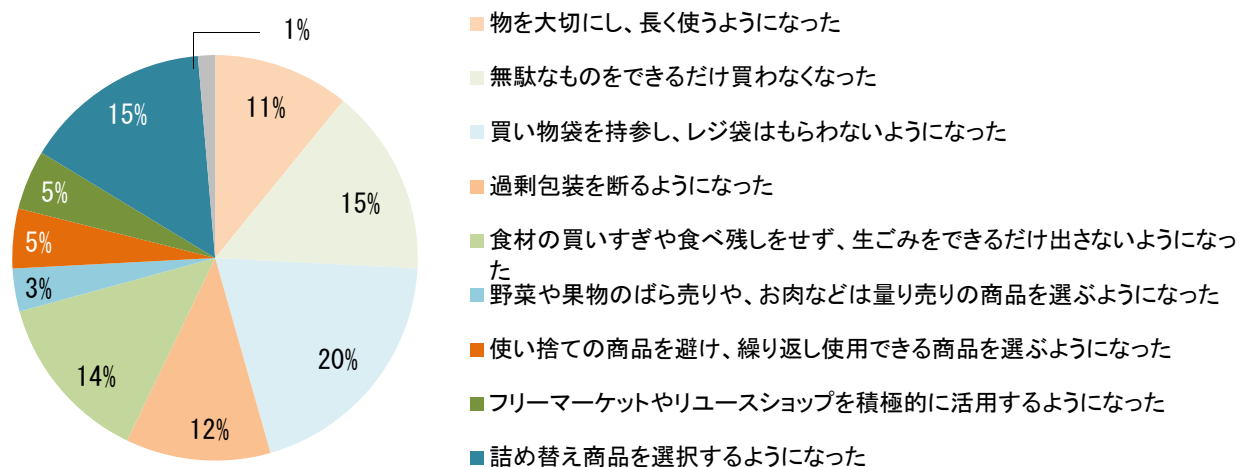
(2) 世帯におけるごみ減量・再使用への取組について【有効回答数 50人 複数回答有】

	(人)	(割合)
物を大切にし、長く使うようになった	16	32%
無駄なものをできるだけ買わなくなった	22	44%
買い物袋を持参し、レジ袋はもらわないようになった	29	58%
過剰包装を断るようになった	17	34%
食材の買いすぎや食べ残しをせず、生ごみをできるだけ出さないようになった	20	40%
野菜や果物のばら売りや、お肉などは量り売りの商品を選ぶようになった	5	10%
使い捨ての商品を避け、繰り返し使用できる商品を選ぶようになった	7	14%
フリーマーケットやリユースショップを積極的に活用するようになった	7	14%
詰め替え商品を選択するようになった	22	44%
その他	2	4%
合計	147	—

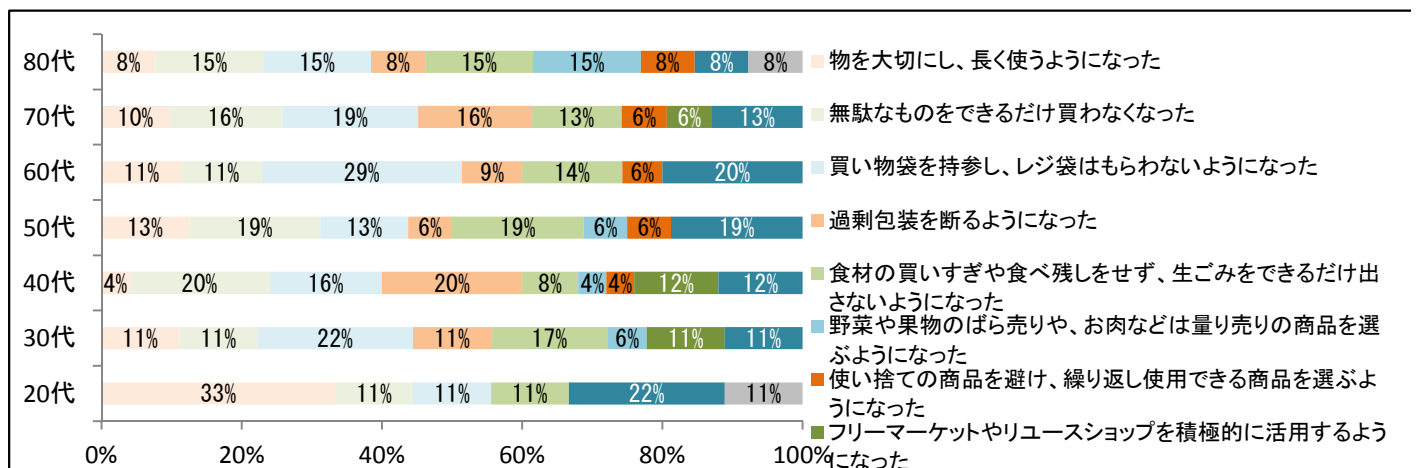
注) (1)で「大いに高まった」又は「少し高まった」と回答した方のみ回答

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

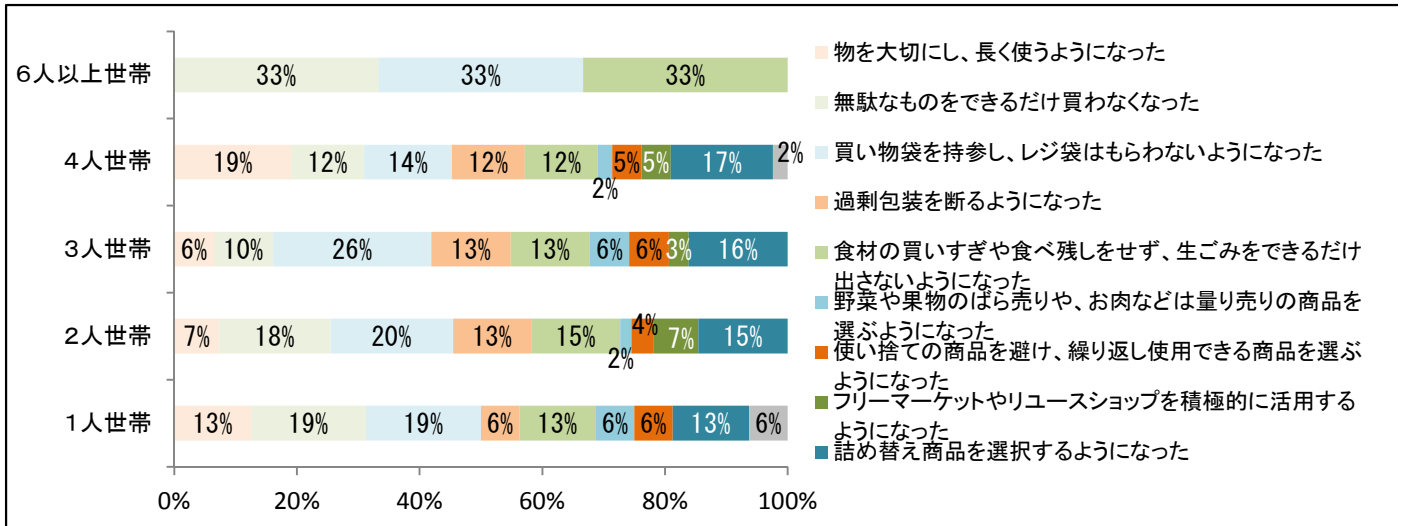
その他回答 ・ごみを出すときはできるだけ少なくコンパクトになるように工夫するようになった。  
 ・衣類もよく選んで買い、買った物は大事に使うようになった。



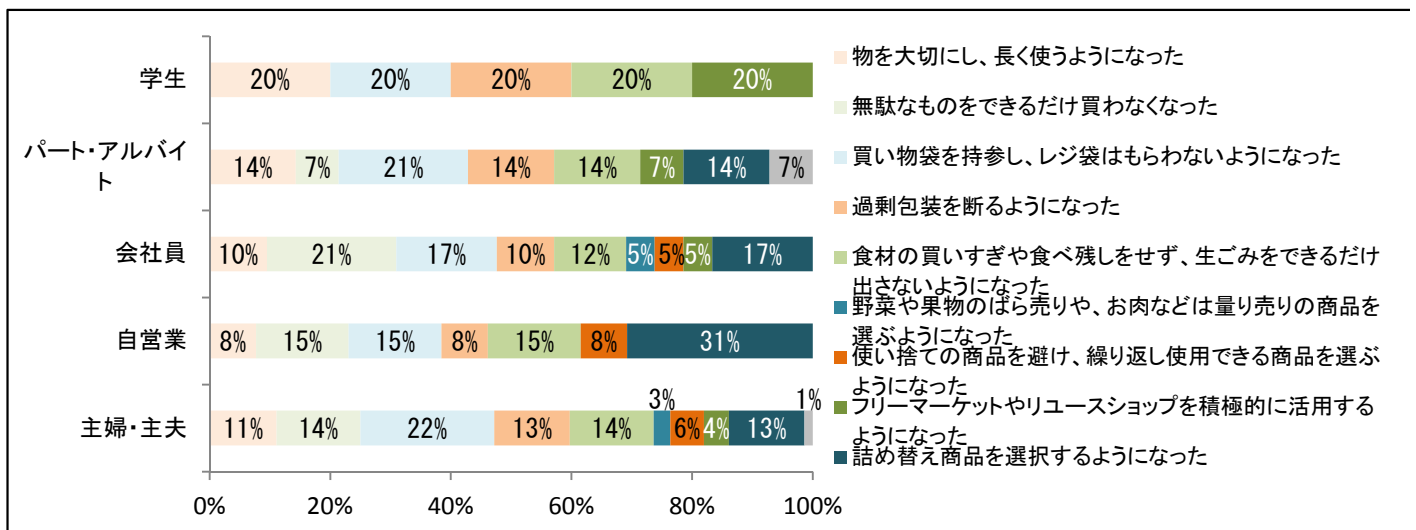
ア 年代別集計【有効回答数 50人】



イ 世帯人数別集計【有効回答数 50人】



ウ 職業別集計【有効回答数 49人】



注) 職業無回答1人

(3) 世帯におけるリサイクルへの取組について【有効回答数 48人 複数回答有】

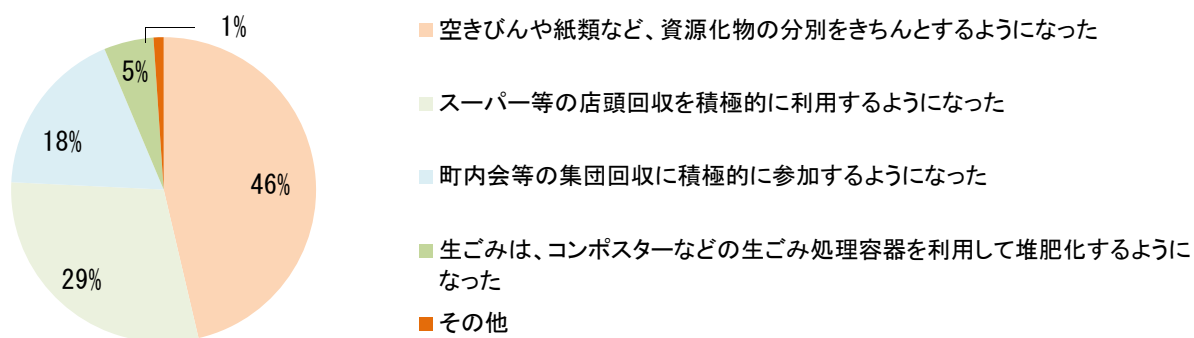
	(人)	(割合)
空きびんや紙類など、資源化物の分別をきちんとするようになった	44	92%
スーパー等の店頭回収を積極的に利用するようになった	28	58%
町内会等の集団回収に積極的に参加するようになった	17	35%
生ごみは、コンポスターなどの生ごみ処理容器を利用して堆肥化するようになった	5	10%
その他	1	2%
合計	95	—

注) (1)で「大いに高まった」又は「少し高まった」と回答した方のみ回答

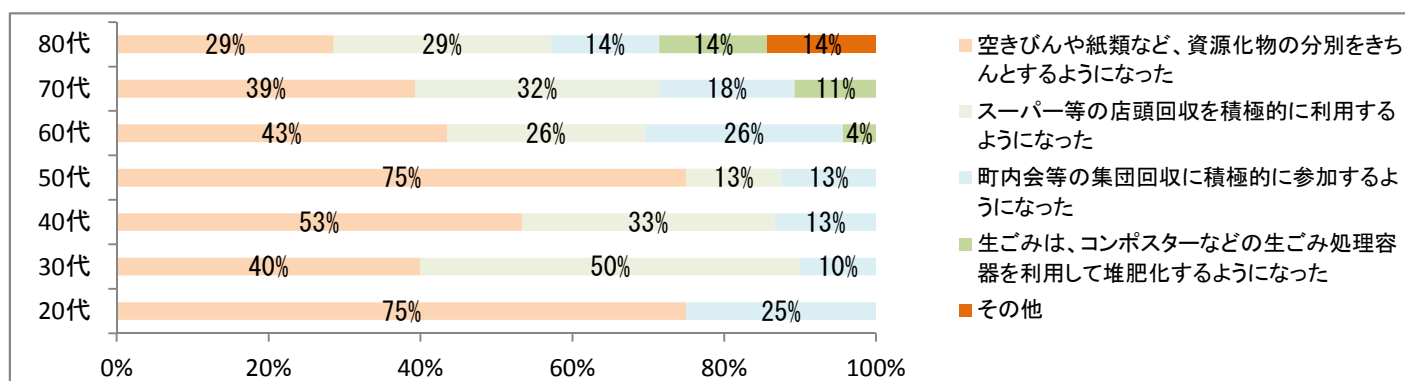
注) 無回答2人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

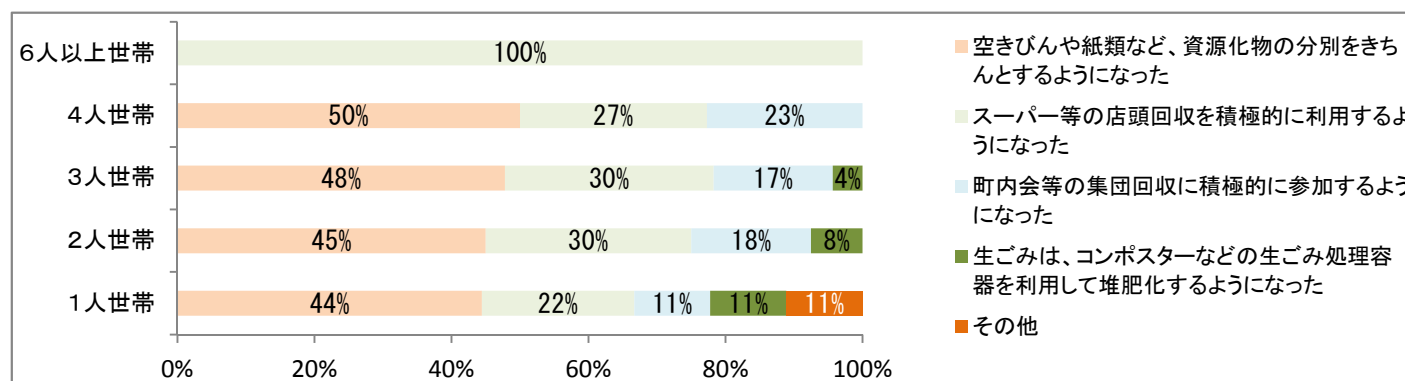
その他回答 ・使えるが自分で使わない物は、使う人に譲るようになった。



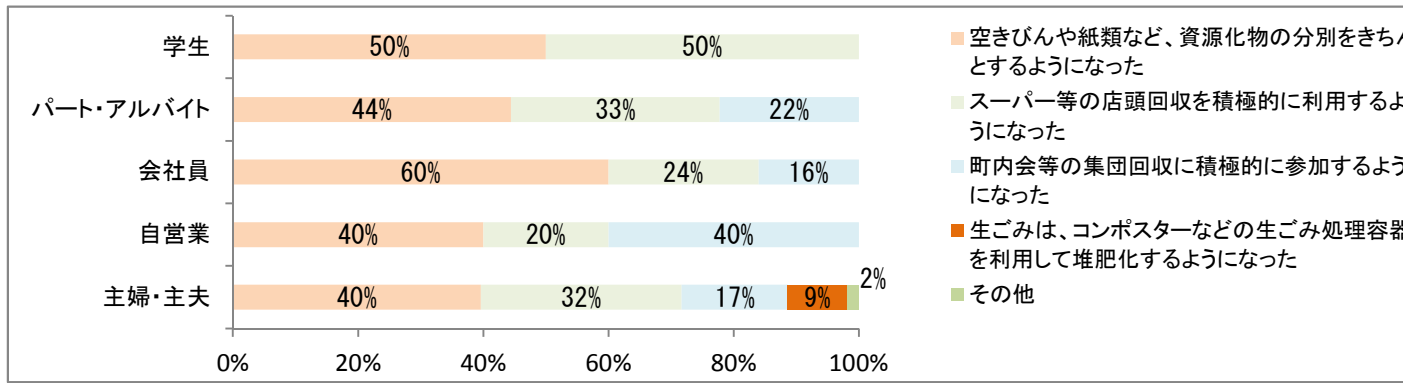
ア 年代別集計【有効回答数 48人】



イ 世帯人数別集計【有効回答数 48人】



ウ 職業別集計【有効回答数 47人】



注) 職業無回答 1人

(4) 世帯におけるごみ減量・再使用・リサイクルへの意識が高まらない理由について

【有効回答数 22人 複数回答有】

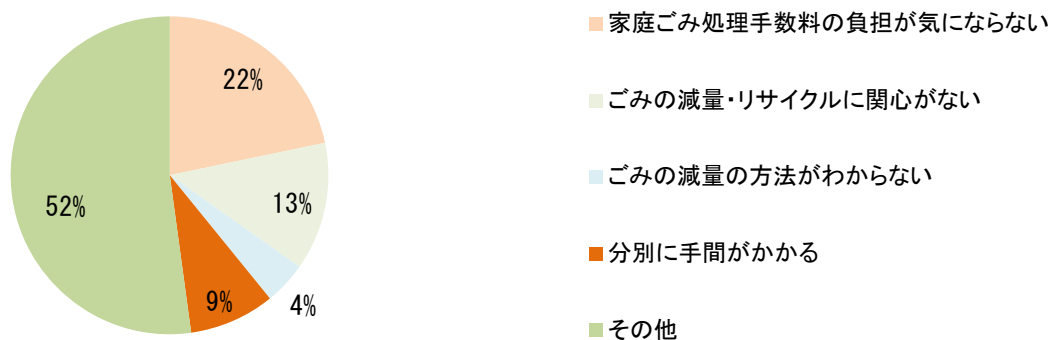
	(人)	(割合)
家庭ごみ処理手数料の負担が気にならない	5	23%
ごみの減量・リサイクルに関心がない	3	14%
ごみの減量の方法がわからない	1	5%
分別に手間がかかる	2	9%
その他	12	55%
合計	23	—

注) (1)で「ほとんど変わらない」又は「全く変わらない」と回答した方のみ回答

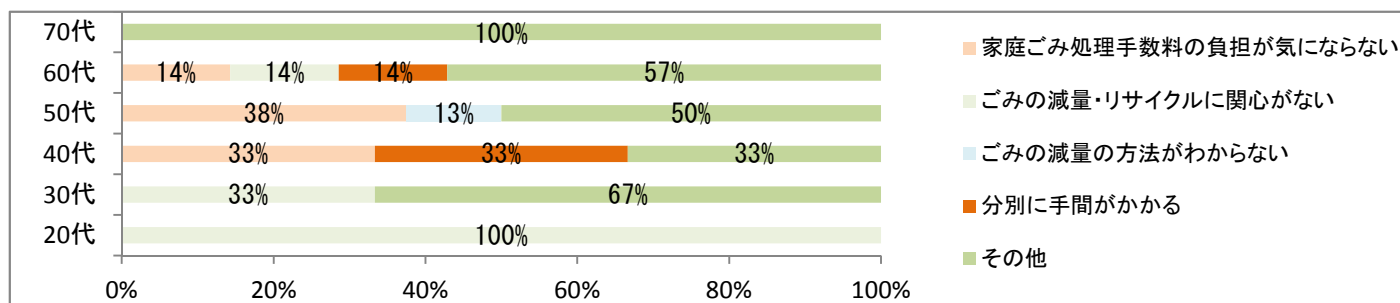
注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

その他の主な回答 ・有料化前もごみの分別を行い、減量に心掛けていた。(同様回答8人)

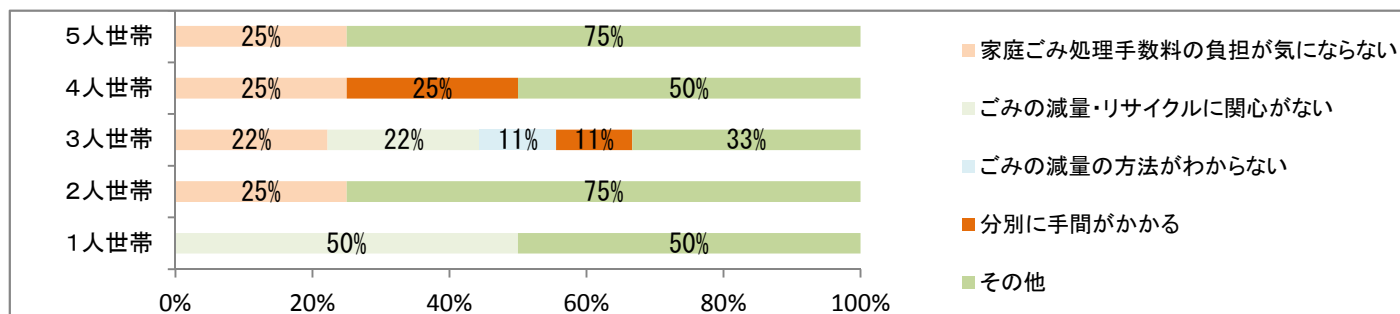
- ・ごみ処理手数料の負担が気にならない訳ではないが、処理するための費用がかかっていることを知っているの、しょうがないと思っている。
- ・生活していれば必然的に出るごみしか出していない。有料になったからといって減らしようがない。
- ・税金(市民税)を支払ったのに、有料化はおかしいと思う。早めにやめるべきである。



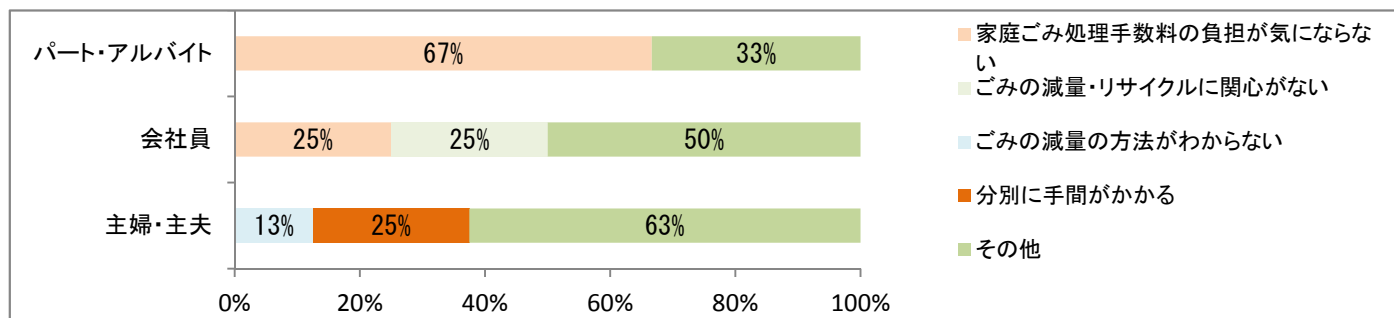
ア 年代別集計【有効回答数 22人】



イ 世帯人数別集計【有効回答数 22人】



ウ 職業別集計【有効回答数 22人】





(5) 家庭から排出されるごみ減量の必要性についての考え【有効回答数 57人 自由記載】

ア ごみ減量の必要性について肯定的な意見

- ・廃棄される食品、過剰包装など一義的な無駄とその処理に多大な経費を要することで二重の損失を生んでいる。環境悪化など加えると三重、四重の害悪ともなる。ごみ減量は重要な課題である。(男・60代・主婦、主夫)
- ・今の社会は大量消費の時であり、ごみはどうしても出る。一般家庭からも毎日のようにごみは出てくる。  
ごみの減量はいろいろ工夫されてきている。大きくはリサイクルなどであろう。廃棄物をごみと考えなければ、リサイクルでごみ=0となる。もともと金を出して物を購入するが、ごみを購入してくるわけではない。しかし、その購入の中にごみとなる物が相当多い。物を作る側に何らかの工夫が必要と思う。大量消費が進むにつれ、ごみの減量、ごみの処理方法等がさらに望まれる。(男・70代・主婦、主夫)
- ・ごみを焼却する施設の維持費、燃料費等莫大な市税を年間使っている。一人一人がごみを減らす意識を持ち、行動に移す事で大きな力となり市税を減らすことになる。そういう意識を市民にもっと持ってもらう働きかけが市として足りないと思う。費用の面から有料にする(袋)事はやむを得ないと思うが、並行して無駄をなくす(ごみを減らす)事の大切さをもっと市民に対して分かりやすく幅広く、そして細やかにやっていかなければならないと思う。(男・60代・会社員)
- ・リサイクル等の推進により、限られた資源を有効に活用できるとともに、処分量の軽減は市の予算にとっても良いことだと思う。(男・50代・会社員)
- ・物を大切にすることが高まり、分別の意図・目的がわかることで減量への意識も高まると思う。(男・30代・会社員)
- ・焼却燃料を節約できる。CO2排出量を抑制できる。(男・50代・会社員)
- ・減量は必要。さらに減量するためのアイデアが知りたい。郵送物(封筒等)もリサイクルしやすい工夫をするだけで、さらに紙類の分別がしやすくなる(ビニールの窓のついたDM・封筒をなくす等)。コンポスターを置きたいが、色の工夫などで分譲地の家にも堂々と置けるとよい。(男・40代・会社員)
- ・生活しているからには必ずごみは出るもの。各家庭で考えて減量に協力するようにすること。秋田市はよくやっている。文句なし。(男・70代・主婦、主夫)
- ・CO2削減のために一人一人が考えていかなければならない問題だと考える。(男・40代・会社員)
- ・ごみ焼却炉の延命。資源の有効化。(男・70代・主婦、主夫)
- ・週2回の回収を1回に出すようにして処理量を減らしている。(男・60代・パート・アルバイト)
- ・時代は物を大切に作る時に入ったと思う。ごみも減らす事が時代の流れと感じる。(男・60代・会社員)
- ・温暖化が深刻な環境問題となっていることは言うまでもなく、地球社会全体の問題です。環境、ごみ問題に一人一人がごみを減らす意識を持つように心掛けることが減量につながる。ごみはごみ箱に捨てて終わりではない。収集、分別、リサイクル、焼却、埋立て等、処理にかかる手間、費用は莫大だと思う。また、家庭ごみの処理は市民の税金が多く使用されていることを理解し、減量に取り組むことが必要。市民責任として、ごみになるものを持ち帰らない、買わない、使った物をできれば再利用する。再資源、再使用し、リサイクルできるごみを減らすことが減量、最善なことかなと思う。(ごみになることは断る。捨てるときは再生し、再利用する、買う量、使う量を減らす、できれば繰り返し使う)＝減量・削減。(男・50代・職業無回答)

- ・ごみの処理は環境に与える影響も大きいので、減量は大事であるが、有料化による取組は低所得者にとってつらい方法ではないか。（男・50代・会社員）
- ・処理費用が馬鹿にならないと思うし、減らせる限り減らすべきだと思う。現在の秋田は、人口が少なくなってきたが、その分、世帯・個人ごとの排出量が把握しやすいのではないかと。ただ、人が少ないということは、それだけごみを作る人も少なく、費用の面では、プラスマイナスゼロなうえに、袋の有料化によってごみを減らすようにしている人は多いと思う。（男・20代・主婦、主夫）
- ・今後とも継続した取組が必要と思う。（男・50代・会社員）
- ・80歳代で不要な物が生じているので、高齢者でもリサイクルしやすいシステムがあればよいと考える。地球温暖化を防ぐため、物を有効活用して不必要な物は買わないことが大事である。ごみの減量について、家族全員の認識を高めることが大事である。そして全国民運動として展開すべき重要案件だと思う。（男・80代・主婦、主夫）
- ・ごみの減量は必要だが、手数料負担はおかしいと思う。税金で対処すべき問題だと感じている。市は市民市民に対して納得できる説明をすべき。（男・40代・会社員）
- ・かねてより、各家庭では、減量に取り組んでおり、有料無料問わず排出作業の軽減に努めているはずである。製造・流通の入口側での減量取組を加速させる必要があると考える。（男・50代・会社員）
- ・環境のためにも、自身のためにも、なるべくごみを出さないにこしたことはないと思う。そもそも買い物をする時に長く使える物を選んだり、洗剤の詰め替えは大容量タイプを買って何でもごみに出さないように考えるようになったのは、ごみ袋が高くなったおかげだと思う。慣れるとだんだんそれが当たり前になっていくので全く苦にはなりません。一度出たごみは、どんなに形を変えても完全に消えてなくなるわけではないので、ごみに埋もれてしまう前に、今のうちに「減らす」ことに慣れるのもよいのではないかと。（女・30代・自営業）
- ・近年の異常気象、限りある地球資源、40代後半だが子供の頃とは変わったなど実感することが多々ある。ごみの減量は、個々人ができる一番簡単で誰もができる地球環境を守る大切な手段だと思う。ごみステーション等地域に身近な所に捨てる場所があると、各家庭ごみは減少するのではないかと。（女・40代・自営業）
- ・これからの世代によい環境を残していくためには、ごみを減らしていくことが大切だと思う。（女・50代・パート・アルバイト）
- ・資源化物の分別がよりきちんとするようになった（特に新聞紙など）。買い物袋持参、スーパー等のトレイ回収も活用している。生ごみは家の土の中に埋めている（畑のための土作り）。ペットボトルのふたも集めている（朝日新聞：子供たちの命を守るための医療）。私が子供の頃、物を大切にしている親の姿を見ている（今は物が溢れている。物の大切さを今一度考えさせられた）。ごみ減量をしながら今ある資源を大切にしつつ、また、自然をあまり壊さず大切にしっかり根をはって暮らしていきたい。（女・60代・主婦、主夫）
- ・ごみの減量は必要。しかし市民全てがこのことを考えているかどうかはわからない。なるべく多くの人々が減量に協力するか否かで効果が上がるかどうか決まる。有料化はうれしいことではないが、方策としては一番効果的。（女・60代・主婦、主夫）
- ・人が生活していくうえでごみが排出されることは当然のことと考えている。行政がごみ収集、ごみ処理をしてくれる現状をとってもありがたく、おかげ様で快適な暮らしができるのだと感謝している。我々ができることといえばごみの減量に気を配ることと考える。できる限り努力したい。（女・70代・主婦、主夫）
- ・排出されるごみは少ないにこしたことはないと思うが、結局は、いくら有料化にしても気にしない人にとっては関係ない（減量につながらず）というか、もともと心掛けて生活していた人にとっては、手数料の負担感の方が大きいのでは。家からでるごみを減らすためなのか、スーパーで袋詰めの際に、いらぬ包装を全部店のごみ箱に入れてる人もよく見るし、何が「減量」なのか、モラル？マナー？個々人が考えて減らしていければよいと思う。（女・30代・主婦、主夫）
- ・環境を守っていくために必要だと思う。（女・40代・パート・アルバイト）

- ・ごみの減量は必要だと思う。今は、不純だが、ごみ袋が高いからごみの量を減らそうと思っている。ごみ置き場でも有料になってから45%の袋から30%の袋が多くなった。地球温暖化や資源の点からもごみの減量は必要だが、スローガンだけでは日々の生活の中で実効性が低いので有料化は一つの方策だと思う。(女・60代・主婦、主夫)
- ・大変よいことだと思う(必要と思う)。意識を持って生活が必要で、町もきれいになっていくと重い、関心を持ち続けたい。(女・80代・主婦、主夫)
- ・「ごみ」と一言と言っても、その中には細かく分別すると資源となるものがまだまだ多いと思う。ごみの有料化によって気をつけることが増えたが、より工夫してごみを減らしていく必要があると思う。  
町内で、アルミ缶の回収もするようになった。それにより、町内からごみ袋を提供してもらえるようになり、とても助かっている。  
子供がいて、おむつの量はどうしても減らせない。市への申請で、ごみ袋を子供一人につき30袋いただいている。このようなサービスも広めていくことで、ごみ減量への意識にもつながっていくと思う。(女・20代・パート、アルバイト)
- ・昨年、ごみ処理場を見学した際、いかに一人一人の心掛けが必要かということを感じた。  
(女・60代・主婦、主夫)
- ・秋田市のPRにより、家庭ごみ減量の必要性については、各家庭が理解し努力していると思う。家庭ごみで一番多いのが毎日の食品からのごみになっている。水切りや一晩おいてからしぼっているのもその量はそれほど多くない。一方、店頭販売の過剰包装によるごみも結構多い。結局、色付きトレイは家庭ごみになりその量は多い。販売する側もこのようなことを考え、家庭(消費者)と一緒に減量に取り組むことが大切だと思う。市からお願いしていただければありがたい。このことが高額な黄色のごみ袋が安くなることにもつながると思う。  
(女・30代・会社員)
- ・今、私たちはごみ問題に直面している。ごみ減量により、ごみ処理にかかるコスト削減が見込まれる。環境省からも「循環型社会への挑戦」ということで①何よりもごみを出さないこと②出してしまったごみはできるだけ資源として使うこと③どうしても使えないごみはきちんと処分することを始めようとする啓発をしている。私はマイバッグをを定着させているが、会計時、前後の人をみると根付かせるにはまだまだのようである。コンビニエンスストア、百貨店のマイバッグも必要ではないかと思う。ごみ減量・3R活動、リサイクル・リデュース・リユースを少しずつできるように私は増やす努力をしていきたい。(女・40代・会社員)
- ・焼却炉の耐久性・燃料費の節約のため、台所から出るごみの水切りをしっかりとするよう、個人個人が心掛けてほしい。(女・70代・主婦、主夫)
- ・ごみを燃やすことでの温暖化への影響は、少しずつ自分たちに返ってきていると思う(気候の変化など)。ごみという一人一人が関わることに意識されないと、気候の変化も何も変わらないと思う。小さいことだと思うが、ごみの減量方法の周知や工夫をすることで、一人一人が必要を感じることは、将来の子供たちの環境づくりの意識付けにもなるはず。  
(女・50代・会社員)
- ・ごみはできるだけ少ない方がよいが、生活している限りごみは出るが、個人としてごみ処理はできない。  
今後、人口が減っていくので、市全体としては確実にごみは減るので、今のような大型の処理施設は必要なくなると思う。分別処理しないというプラスチック類は、コークスの代わりに助燃剤となっているということなので、目標の480gから減らすべきと思う。生ごみに関しては、個人でのコンポスター活用くらいでは限界がある。  
ぎゅっと水を切ってから、市として回収して堆肥などにしていくことが必要では。検討していただきたい。(女・60代・主婦、主夫)
- ・これまで(有料化をする前)あまりごみの減量について意識していなかった。ただ、以前、県外に住んでいた頃は、分別が細かくて、秋田に移り住んだとき、燃えるごみとして捨てられるものが多くて感動した。そういうこともあり、ごみの分別については、秋田市のルールをきちんと守ろうと気をつけてはいた。有料化になってからは、さらにごみを減らすということも考えるようになったが、気をつける程度で、具体的にどんな工夫ができるのかを調べたりということまではできていない。逆に情報がほしい。(女・40代・会社員)

## イ ごみ減量の必要性について否定的な意見

- ・ごみ袋が有料になった事で、減量などはお金を払っている以上はしないと思っている。  
(男・30代・会社員)

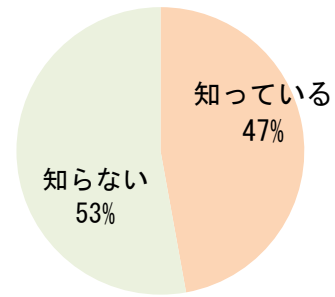
## ウ その他（市への意見等）

- ・特に考えていない。（男・20代・主婦、主夫）
- ・ごみの有料化は納得できない。（男・50代・会社員）
- ・むずかしいとは思いますが、ごみ袋の価格が半分位にならないものか（できれば無償に）。合理的な運用をお願いしたいと思う。（女・70代・主婦、主夫）
- ・有料ごみ袋が高すぎる。生ごみは少ないほうだが、子供もいるので量は減らせない。今、物価（食料）も高く、ごみのことまで考えての買い物は無理。「飢え死」する。工夫する時間もない。カップ麺でもかさばるのは知っているが、安ければまとめ買いする。日用品の詰め替え、古紙回収は努力している。（女・40代・主婦、主夫）
- ・環境によさそうなイメージだが、具体的にはどのような課題・問題または改善などに関連している事があるのかわからない。（女・40代・主婦、主夫）
- ・家庭からの必要性は浮かばないが、会社関係はどうなっているのか知りたい。  
（女・70代・主婦、主夫）
- ・年金暮らしなので色々と辛抱し、気をつけているだけである。（女・70代・主婦、主夫）
- ・秋田市ではごみの分別があまり細かくないので大抵のものは燃えるごみとして出すことができる。それが、かえってごみ減量に結びついていないような気がする（分別せずに気軽にごみ袋へ入れてしまう）。（女・50代・パート、アルバイト）
- ・ごみの減量は確かに大事だが、その前にごみを適正に分別する意識付けが必要だと思う。また、そのごみの量をどの程度減らすことが目的なのか、なぜその量なのか、はっきりとした理由があるのか疑問である。景気とごみは、ある意味直結していると思う。減らすことばかりでは、暮らしに明るさは見いだせない気がする。（女・50代・会社員）
- ・総合環境センターをもっとアピールするといいいのではないか。ごみ減量すると溶融炉施設の燃料削減につながる。（女・30代・パート、アルバイト）
- ・生ごみの堆肥の講習会をもっと多く行ってほしい。（男・70代・主婦、主夫）
- ・スーパー等の店頭回収のトレイについては、資源ごみとして市の回収対象にしてほしい。  
（男・70代・主婦、主夫）
- ・秋田市はもっと分別を細分化すべきだと思う（仙台や盛岡など他県にならって）。  
（女・30代・学生）
- ・ごみ処理の金額については妥当かどうかかわからないが、減量を進める意識付けのためにはよいと思う。その金額がどのように使われているか誰でも興味を持って読めるような工夫が必要と思う。（女・70代・主婦、主夫）
- ・啓蒙活動が足りないと思う。人口が減少する中で、ごみの全体量や処理手数料、処理費用はどのように推移するのか疑問。（女・30代・会社員）
- ・8月に町内のシニアクラブでごみの減量～について講演がある。是非参加したいと思う。高齢者の片付けを業者に頼みたい、かつ、市の補助があるといいと思う。  
（女・60代・主婦、主夫）
- ・以前は夫婦二人生活でごみのことをあまり考えなかったが、同居する家族が増えて、ごみの量も減らすより増えている状態。学校で教育していただきたいと思う。  
（女・60代・主婦、主夫）
- ・レジ袋の有料化が完全に浸透していないので、実施店舗を増やす等工夫が必要。  
（女・40代・会社員）
- ・ごみ処理にかかる費用にまわる税金を環境保全・整備にまわし、災害の少ない秋田をアピールし、移住したい都市にしていってほしい。（女・40代・パート、アルバイト）

### 3 処理手数料相当額等の用途について

#### (1) 処理手数料の用途（全額ごみ処理費用に充当）を知っているかどうか【有効回答数 70人】

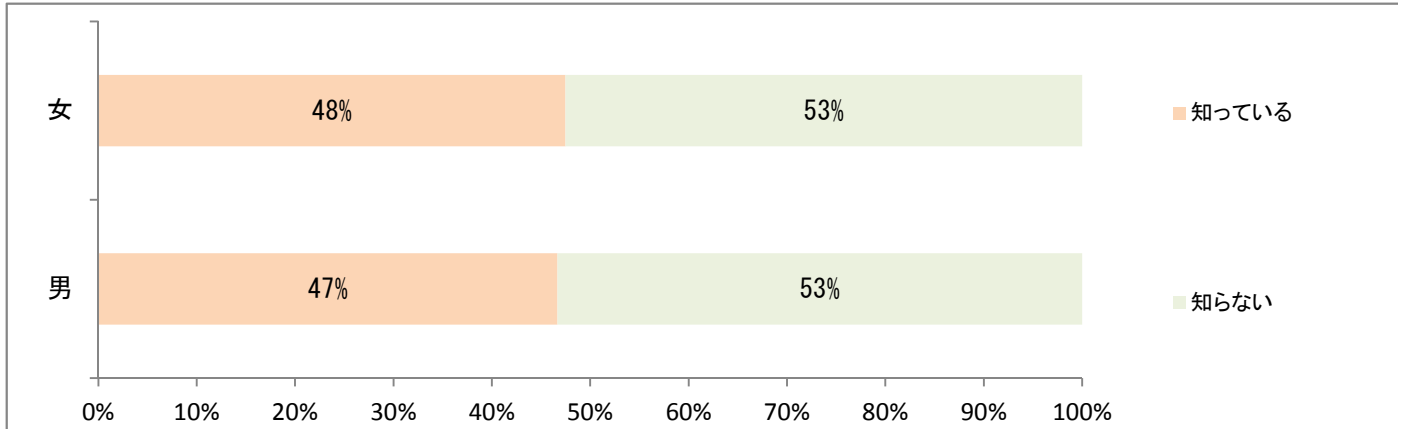
	(人)	
知っている	33	47%
知らない	37	53%
合計	70	100%



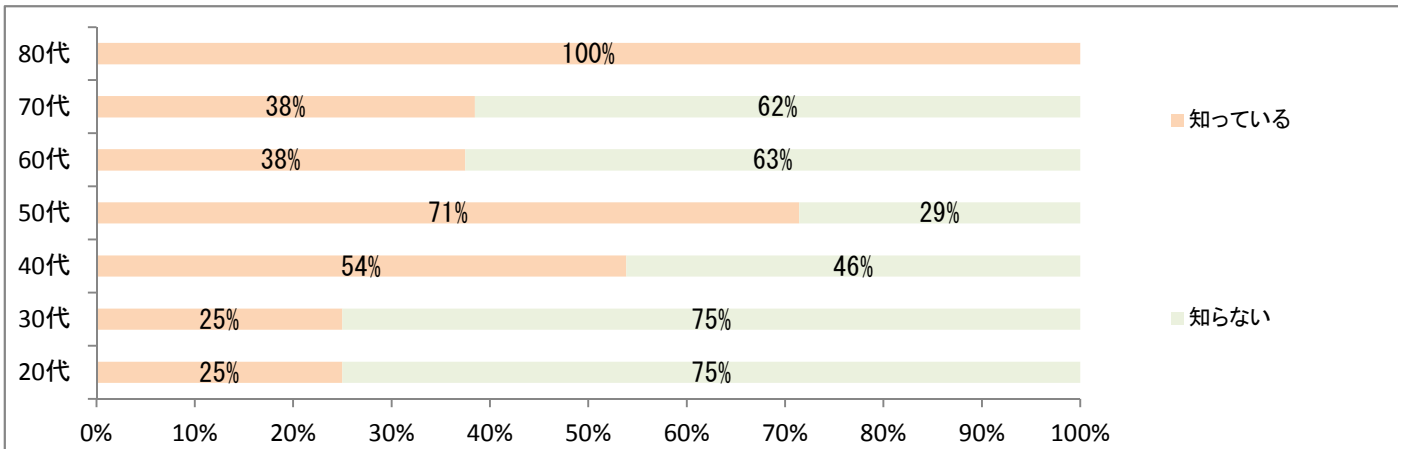
注) 無回答4人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

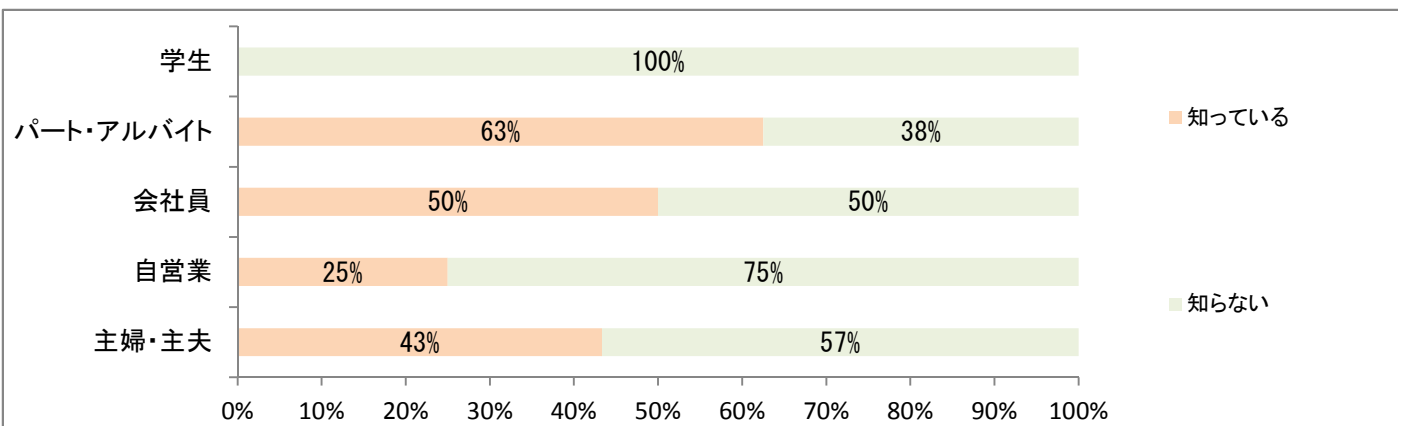
#### ア 男女別集計【有効回答数 70人】



#### イ 年代別集計【有効回答数 70人】



#### ウ 職業別集計【有効回答数 69人】

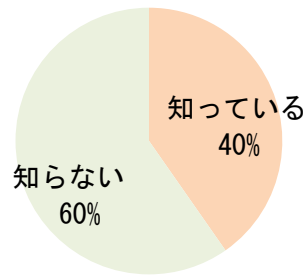


注) 職業無回答1人

(2) 処理手数料相当額の使途（施設整備基金や環境施策）を知っているかどうか

【有効回答数 72人】

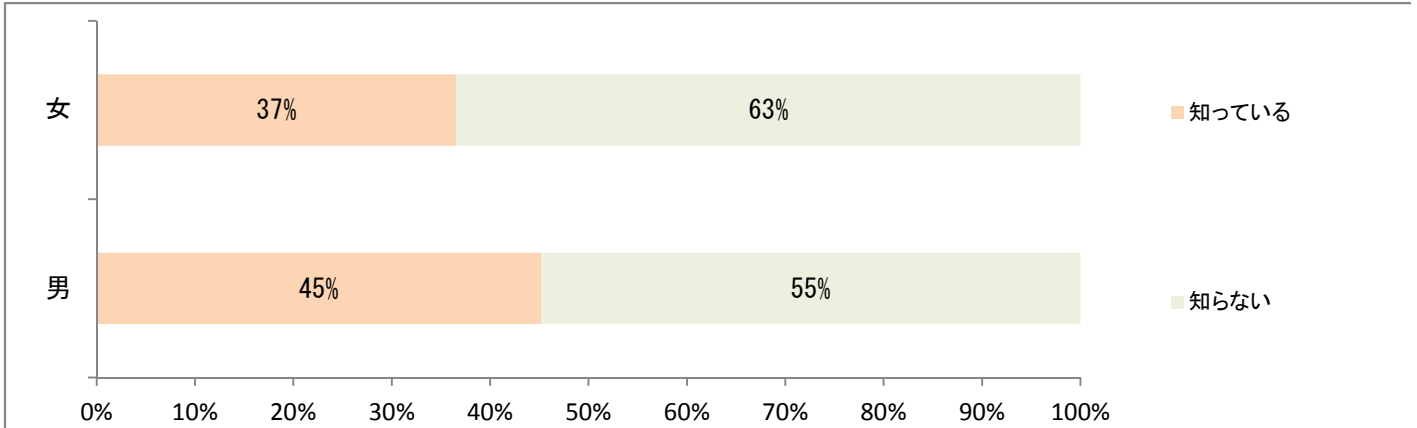
(人)		
知っている	29	40%
知らない	43	60%
合計	72	100%



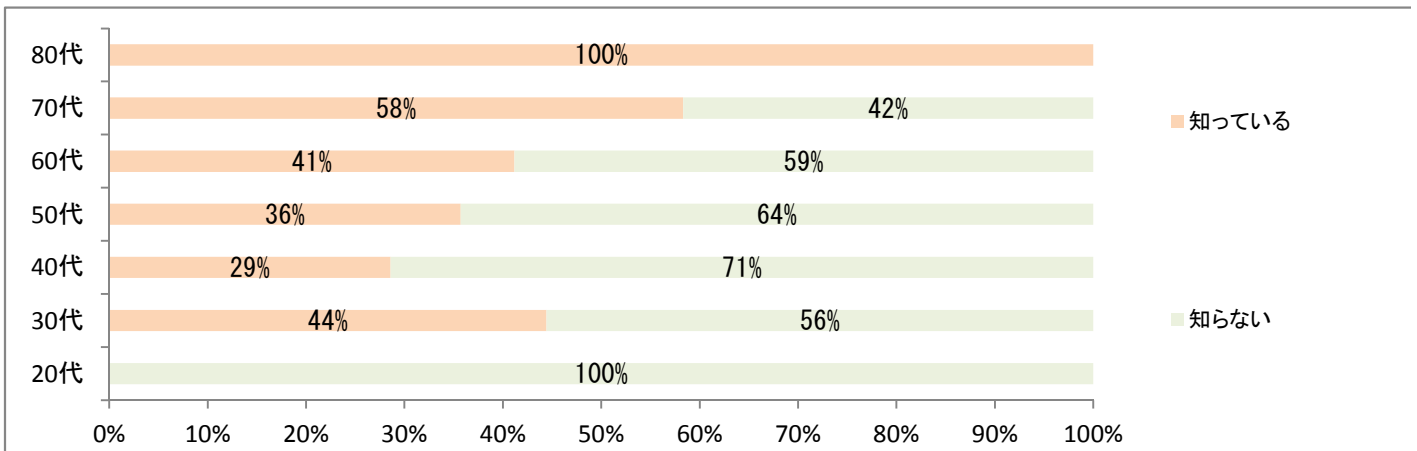
注) 無回答2人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

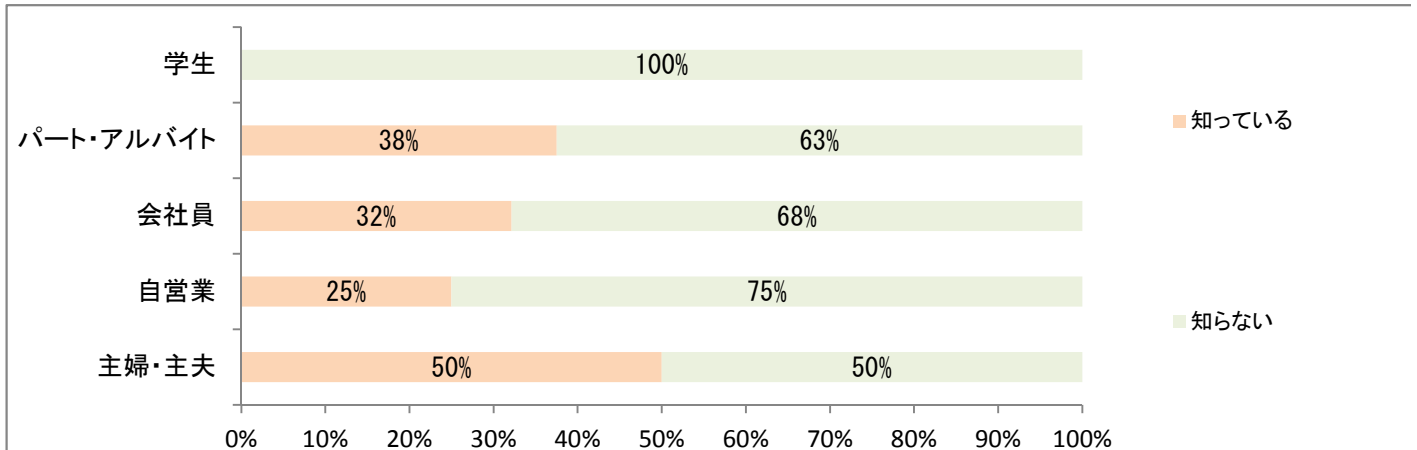
ア 男女別集計【有効回答数 71人】



イ 年代別集計【有効回答数 71人】



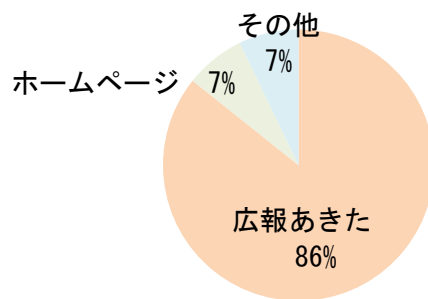
ウ 職業別集計【有効回答数 70人】



注) 職業無回答1人

(3) 処理手数料収入および処理手数料相当額の使途を知った広報媒体等【有効回答数 28人】

(人)		
広報あきた	24	86%
環境都市推進課ホームページ	2	7%
その他	2	7%
合計	28	100%



注) (2)で「知っている」と回答した方のみ回答

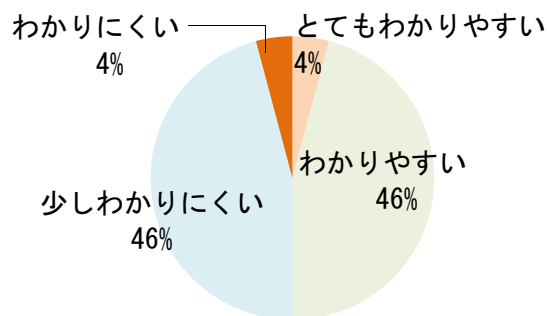
注) 無回答1人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。

その他回答 ・ 総合環境センターの施設見学時の説明  
 ・ 市環境部の説明会

(4) 広報内容のわかりやすさ【有効回答数 24人】

(人)		
とてもわかりやすい	1	4%
わかりやすい	11	46%
少しわかりにくい	11	46%
わかりにくい	1	4%
合計	24	100%



注) (3)で「広報あきた」又は「環境都市推進課ホームページ」と回答した方のみ回答

注) 無回答2人

注) 端数処理により合計の割合と内訳は合わない場合がある。